

集計条件について

《集計対象》

平成 30 年度退院又は転棟した患者

《集計対象施設数》

施設類型	施設数
大学病院本院群	82
DPC 特定病院群	155
DPC 標準病院群	1493
DPC 準備病院	260
出来高算定病院	2774

《合併・分割病院の取扱い》

以下、表記の月を集計対象としている。

独立行政法人国立病院機構まつもと医療センター

- ・独立行政法人国立病院機構まつもと医療センター 中信松本病院（合併前）は、4 月分の 1 カ月データ
- ・独立行政法人国立病院機構まつもと医療センターは、主となる病院としてデータ提出継続のため、4～3 月分の 12 カ月データ（合併前後で同一医療機関扱い）

地方独立行政法人 桑名市総合医療センター

- ・桑名西医療センター、桑名南医療センターは、4 月分の 1 カ月データ
- ・地方独立行政法人 桑名市総合医療センターは、主となる病院としてデータ提出継続のため、4～3 月分の 12 カ月データ（合併前後で同一医療機関扱い）

地方独立行政法人 茨城県西部医療機構 茨城県西部メディカルセンター

- ・筑西市民病院、県西総合病院組合 県西総合病院は、4～9 月分の 6 カ月データ
- ・地方独立行政法人 茨城県西部医療機構 茨城県西部メディカルセンターは、10～3 月分の 6 カ月データ

岡山済生会総合病院

- ・岡山済生会総合病院は、主となる病院としてデータ提出継続のため、4～3 月分の 12 カ月データ（合併前後で同一医療機関扱い）
- ・分割後の岡山済生会外来センター病院は、9～3 月分の 7 カ月データ

《当該年度出来高算定病院の取り扱い》

集計対象期間内に提出された本データを集計対象（試行データは集計対象除外）

《震災等の影響による医療機関データの取り扱い》

以下、震災等の影響により提出データの一部月もしくは全月のデータが不足している。

- ・平成 28 年（2016 年）熊本地震による影響
東熊本病院
- ・平成 30 年 7 月豪雨による影響
まび記念病院
医療法人仁康会本郷中央病院

《集計条件・公表条件》

- (1) 再入院・再転棟について、一般病棟グループ間での4週間以内の再入院・再転棟について集計対象とし、各項目について集計対象が0件の場合は空白（NULL）としている。
- (2) 後発医薬品の使用状況について、一般病棟期間のみを集計対象とし、一般病棟に症例が存在しないもしくは後発医薬品の使用がない医療機関は公表の対象外として‘－’マークで表示した。
- (3) 特定抗菌薬の使用状況について、一般病棟期間およびその他病棟期間を集計対象とし、各年齢区分で症例数が10症例未満の医療機関は公表の対象外として‘－’マークで表示した。
- (4) FIMの入力状況について、入院中に回復期リハビリテーション病棟入院料算定症例を集計対象とし、該当症例がない医療機関は公表対象外として‘－’マークで表示した。
- (5) 要介護度の入力状況について、入院中に療養病棟入院基本料算定症例を集計対象とし、該当症例がない医療機関は公表対象外として‘－’マークで表示した。
- (6) 下記項目に該当する場合は分析対象から除外した。なお、当該年度において辞退届（データ提出加算辞退届等）の提出を行った医療機関も集計より除外した。

分析対象外項目	再入院・再転棟	後発医薬品	特定抗菌薬	FIM	要介護度
診療録情報の重複提出		○	○	○	○
レセプトデータの不足		○	○	○	○
在院日数1日以下		○	○		
外泊≧在院日数		○	○		
年齢0歳未満120歳超		○	○	○	○
入退院生年月日の誤り		○	○	○	○
1日当りの点数が1200点未満		○	○		
自費のみ、保険と他制度の併用及び臓器提供者等		○	○		
24時間以内の死亡		○	○		
特定入院料なしで入院基本料0点以下		○	○		
治験の実施		○	○		
移植手術あり		○	○		
平成30年3月31日以前入院の患者	○	○	○	○	○
厚生労働大臣が定めるもの		○	○		
生後7日以内の死亡		○	○		
DPC該当せず		○	○		
同日再入院		○	○	○	○

※ 今回の集計においてアウトライヤー処理を行っていない。

《集計表について》

①再入院再転棟

様式 1 の再入院調査および再転棟調査を用いて、一般病棟グループ間の 4 週間以内の再入院及び再転棟について医療機関別に下記を算出。

- ・ 一般病棟グループ間の 4 週間以内の再入院および再転棟
- ・ 4 週間以内再入院の期間別の内訳、前回入院病名（同一病名、異なる病名）での再入院別割合
- ・ 計画的再入院における理由の内訳、計画的再入院の理由のうち「検査入院後の手術を行うため」もしくは「手術入院後の手術・処置・検査等を行うため」であった場合の MDC 別内訳
- ・ 計画的再入院の理由のうち「計画的な化学療法のため」であった場合の MDC 別内訳
- ・ 計画的再入院の理由のうち「計画的な化学療法のため」または「計画的な放射線療法のため」であった場合の回数別在院日数
- ・ 4 週間以内の再入院回数

②後発医薬品の使用状況

一般病棟期間で使用された薬剤について、後発医薬品の数量割合（ $=\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{[\text{後発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}]}$ ）を算出。数量は薬価基準告示上の規格単位ごとに、厚生労働省が公表するマスタ（<https://www.mhlw.go.jp/topics/2018/04/tp20180401-01.html>）を基に算出。

③特定抗菌薬の使用状況

一般病棟期間およびその他病棟期間において使用されたカルバペネム系抗菌薬について、各年齢区分（15 歳未満、15 歳以上 65 歳未満、65 歳以上）での AUD（antimicrobial use density：抗菌薬使用密度）および DOT（days of therapy：抗菌薬治療日数）を算出。なお、計算に用いる DDD（defined daily dose）は WHO のサイト（https://www.whocc.no/atc_ddd_index/）に公開されている値（2019 年 5 月 16 日時点の更新情報）を使用。なお、カルバペネム系のうち上記サイトで DDD の値が明示されていないものについては除外して集計している。

- ・ $AUD = (\text{特定期間の特定抗菌薬使用量} / (\text{当該抗菌薬 DDD} \times \text{特定期間の入院患者延べ日数})) \times 1000$
- ・ $DOT = (\text{特定期間の特定抗菌薬延べ投与日数} / \text{特定期間の入院患者延べ入院日数}) \times 1000$

④FIM の入力状況

回復期リハビリテーション病棟入院料算定症例について、医療機関別に下記を算出。FIM 得点が不明や未入力であった場合は不明として割合を算出。また、退棟時 FIM において死亡の場合は死亡として割合を算出。なお、手術有りの判定は様式 1 の手術情報（輸血関連手技（K920 輸血、K920-2 輸血管管理料および K923 術中術後自己血回収術）を除く。）を用いて判定している。

- ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料病床数（当該年度 3 月の様式 3 病床数）
- ・ 入院患者に占める FIM の入力対象症例割合
- ・ FIM 入力対象症例の平均年齢
- ・ FIM 入力対象症例における手術有り割合
- ・ FIM 入力対象症例における入棟時 FIM 得点割合（運動項目別、認知項目別、不明）及び退棟時 FIM 得点割合（運動項目別、認知項目別、不明、死亡）

⑤要介護度の入力状況

療養病棟入院基本料算定症例について、医療機関別に下記を算出。要介護度が不明や未入力であった場

合は、不明として割合を算出。

- ・ 療養病床数（当該年度3月の様式3病床数）
- ・ 入院患者に占める要介護度の入力対象症例割合
- ・ 要介護度入力対象の平均年齢
- ・ 要介護度入力対象の要介護度別割合